時事新報

會堂建築の必要

文明諸國の都府を見るに公園會堂又は書籍館、博物館の如き公共の設置甚だ少なからず何れも公衆の便利快樂に供して文明社會に欠く可らざるものなり我東京府下に於て公園は上野、芝の如き稍や見るに足る可きものあり又書籍博物館の如きは規模の極めて小なるにも拘はらず兎に角に形を存すれども獨り廣大なる會堂の設なきは首府の欠點と云はざるを得ず文明人事の繁多なるに隨ひ時々多人數の集會を催すは自然の必要にして現に今日の實際に必要の場合少からず例へば外國貴賓の來遊に際して饗宴を開き又國家の光榮を祝する集會などの如き會堂の設なきが爲に不便を感じたるは毎度の事にして最も著しきは明治廿二年の二月、憲法發布式の時、東京市民は市の榮譽の爲めに天皇皇后兩陛下の御臨幸を仰ぎ奉りたれども別に趣向とてもなく只市中御巡覽の上、上野の假行在所にて僅に一時の御小休を願ひたるに過ぎざりし如き畢竟大會堂の設なきが爲めにして吾々の今に遺憾に堪へざる所なり左れば現に府下にて大集會の場合には公私の催に拘はらず公園地内の野天にて會するか然らざれば宿屋料理店を借受るの例にして現に天長節の夜會の如きも帝國ホテルなどにて催ほすの常なれども府下の宿屋料理店に廣大なる建築は甚だ少れにして一室の中に數百人を會す可きものは絶えて見る可らず今後内外交際の頻繁なるに隨ひ時々大集會の行はるゝは勿論、何かの折に陛下の臨御を辱うするの場合などには差當り困却の次第なれば東京市内に一大會堂の設置是非とも必要なりと云ふ可し我輩の所見を以てすれば其設置の費用は市民一般にて負擔し市の中央を卜して數千人を容るに足る可き建築を起し以て公衆の便に供し平日不用の時には書畫美術品等の展覽會又は一私人の集會などに貸與するも自から便宜の法なる可し建築の爲には幾十萬の金を要し隨て維持の費用も少なからざるべけれども市の共有物として市民一般にて負擔すれば物の數にも非ず或は東京には現に市區改正の事あり水道敷設の事あり其事業さへ未だ緒に就かざるに公衆の便利快樂に供する會堂の建築、目下の必要に非ずなど云はんかなれども若しも必要云々の點よりするときは彼の公園の如きも亦不必要にして之を止むるも差支なきが如くなれども實際に之を止めたらば一般の不便不愉快は一方ならずして市民の堪へ難き所なり即ち其必要は市區改正水道敷設に比して毫も異なる所を見ず會堂の如き實際に其設なきが故に一般の感情も公園の如く切ならざるが如しと雖も現に差支の少なからざるは前記の如くにして差當りの必要と云はざるを得ず或は外國人などの見る所にて東京市民は如何なる儀式集會も料理屋の樓上又は公園の野天にて行ふの常なりなど評せらるゝこともあらんには文明都府の恥辱にこそあれば會堂の建築は市區改正水道敷設の事業と同一の必要として速に着手せんことを我輩の希望する所なり

雜報

○金鵄勲章

(功五級は年金三百圓、功七級は同百圓)

敍功五級授金鵄勲章、授單光旭日章
海軍大技士 [illegible]　海軍大尉 高崎宗次郎
海軍大技士 [illegible]　海軍大技士 國司鶴之助

海軍大技士 松尾鶴太郎　海軍大技士 山崎甲子次郎
敍功五級授金鵄勲章、敍勲六等授瑞寶章(以上五名)
海軍少技士 岩田武鶴太
陸軍工兵少佐 牧野清人　陸軍一等軍醫 澁川鉴次郎
敍功五級授金鵄勲章、敍勲六等授瑞寶章(以上二名)
陸軍歩兵少尉 藤村謙一　陸軍歩兵少尉 栗田禮萬太
陸軍歩兵少尉 大原亮　陸軍工兵少尉 一柳藤市
敍功七級授金鵄勲章、敍勲六等授瑞寶章(以上四名)

陸軍歩兵二等軍曹 横田安治
陸軍歩兵一等軍曹 松本茂一郎
陸軍歩兵特務曹長 佐藤鍋吉
陸軍歩兵上等兵 藤原留市
陸軍歩兵曹長 花田嶋市
陸軍歩兵一等軍曹 鈴木岩吉
陸軍歩兵上等兵 田中萬藏
陸軍歩兵曹長 前原友二郎
陸軍歩兵一等軍曹 柴崎德太郎
陸軍歩兵一等軍曹 村瀬直次郎
陸軍歩兵二等軍曹 林松五郎
陸軍歩兵一等軍曹 四戸友太郎
陸軍歩兵一等卒 河本房吉
陸軍歩兵上等兵 中村盛造
陸軍歩兵曹長 芳賀康藏
陸軍歩兵一等軍曹 別當長太郎
陸軍歩兵一等卒 河田伊三郎
陸軍歩兵一等卒 柿崎岩之助
陸軍歩兵上等兵 福田留五郎
陸軍歩兵二等軍曹 矢ケ部岩吉
陸軍歩兵上等兵 松村彌惣吉
陸軍歩兵上等兵 白井安藏
陸軍歩兵二等軍曹 田中石松
陸軍歩兵特務曹長 望月志米八
陸軍歩兵一等軍曹 宮崎榮吉
陸軍歩兵一等軍曹 石井新治
陸軍歩兵特務曹長 小野好篤
陸軍歩兵一等軍曹 竹内兼十郎
陸軍歩兵上等兵 増田保吉
陸軍歩兵二等軍曹 松浦政平
陸軍歩兵一等軍曹 徳井岩吉
陸軍歩兵曹長 朝田市太郎
陸軍歩兵上等兵 山辻連之助
陸軍歩兵二等軍曹 中西松吉
陸軍歩兵特務曹長 深見辰次郎
陸軍歩兵一等軍曹 稻葉利兵衛
陸軍歩兵一等軍曹 吉本淳
陸軍歩兵曹長 中嶋實
陸軍歩兵一等軍曹 松岡貢
陸軍歩兵二等軍曹 齋藤常治
陸軍歩兵二等軍曹 生野喜太郎
陸軍歩兵上等兵 柿山敬藏
陸軍歩兵上等兵 池田茂
陸軍騎兵一等軍曹 村岡留次郎
陸軍騎兵一等軍曹 下園彌三吉
陸軍騎兵特務曹長 荻原直四郎
陸軍騎兵一等卒 竹澤利次
陸軍砲兵一等軍曹 池永正臣
陸軍砲兵一等軍曹 原田藏之助
陸軍砲兵二等軍曹 高橋勇治
陸軍砲兵二等軍曹 佐々木千二
陸軍工兵二等軍曹 深澤鎗一
陸軍工兵二等軍曹 藤森次郎治
陸軍工兵二等軍曹 黒田福太郎
陸軍輜重輸卒 强矢字作
陸軍歩兵曹長 中村幸吉

陸軍歩兵特務曹長 森田三郎
陸軍歩兵特務曹長 森山謙之助
陸軍歩兵曹長 森山幸市
陸軍歩兵特務曹長 藤井又五郎
陸軍歩兵上等兵 谷多兵衛
陸軍歩兵一等卒 原愛之進
陸軍歩兵曹長 嘉賀勘助
陸軍歩兵一等軍曹 三好竪吉
陸軍歩兵一等軍曹 石山信次
陸軍歩兵一等軍曹 福原信治郎
陸軍歩兵特務曹長 川越友吉
陸軍歩兵二等軍曹 若林耕造
陸軍歩兵一等軍曹 岩本直太郎
陸軍歩兵二等軍曹 品川順猶
陸軍歩兵上等兵 小松長吉
陸軍歩兵上等兵 野口伴市
陸軍歩兵一等軍曹 阿部庄之助
陸軍歩兵二等軍曹 占部正敏
陸軍歩兵上等兵 大野波藏
陸軍歩兵上等兵 入江菊藏
陸軍歩兵一等軍曹 佐渡秀光
陸軍歩兵一等軍曹 小賀友左衛門
陸軍歩兵一等卒 山崎運平
陸軍歩兵一等軍曹 鬼塚六[illegible]
陸軍歩兵曹長 中野岩吉
陸軍歩兵上等兵 成川儀太郎
陸軍歩兵二等軍曹 丸岡奈眞吉
陸軍歩兵一等軍曹 波里武作
陸軍歩兵特務曹長 福井正則
陸軍歩兵上等兵 永沼牛之助
陸軍歩兵一等卒 増田榮八
陸軍歩兵曹長 中村幸平
陸軍歩兵二等軍曹 坂田和太郎
陸軍歩兵一等軍曹 二見梅吉
陸軍歩兵一等軍曹 古賀駒市
陸軍歩兵曹長 杉下晋吉
陸軍歩兵曹長 菅原儀藏
陸軍歩兵一等軍曹 一ノ瀬眞市
陸軍歩兵一等卒 佐野國太郎
陸軍歩兵特務曹長 中村重毅
陸軍歩兵特務曹長 本堂金太郎
陸軍歩兵一等軍曹 落合勇三郎
陸軍歩兵一等卒 須永鶴太郎
陸軍騎兵一等卒 井手喜一郎
陸軍騎兵一等軍曹 奥山富次郎
陸軍騎兵一等卒 林彌次
陸軍砲兵曹長 伊理仁造
陸軍砲兵一等軍曹 赤塚敬雄
陸軍砲兵一等軍曹 星野政太郎
陸軍砲兵上等兵 石崎惣四郎
陸軍砲兵一等軍曹 内田春吉
陸軍工兵上等兵 横山利助
陸軍工兵上等兵 深井市郎兵衛
陸軍工兵一等軍曹 丸岡計佐助
陸軍一等看護長 谷錦次郎
敍功七級授金鵄勲章(以上百十一名)

○整理公債と征討費借入金

二十九年度の豫算に依れば整理公債の償還額は一萬圓又同公債の利子として支拂ふべき高は八百五十萬七千二百五圓八十三錢四厘なり而して政府は二十八年十一月以降二十九年十月迄に發行すべき同公債の見込額は六百一萬五千圓なりと説明書中に記載しあれども昨年十一月中既に二百萬圓の同公債を募集して一千萬圓の征討費借入金中へ返したれば本年十月迄にはその殘り四百一萬五千圓を募集すべき勘定となるなり而して征討費借入金に對し豫算の説明書中に「七分利付征討費借入金利子五十二萬五千圓、本目は第十五銀行よりの借入金にして明治三十年五月償還の約定なるも債主の請求に依り本年度に於て四百萬圓償還の積り」とあり之を以て考ふれば政府は本年十月迄の間に於て金融社界の狀況を察し一回か或は數回に四百萬圓の整理公債を募集し其の得たる金を以て第十五銀行よりの借入金八百萬圓の半額を償還する見込なりと知るべし

○經濟界の前途(承前)

昨年は年末に至りて商況に一頓挫を來したるの趣ありし事は前號に述べたり然れども此は只だ一時の波瀾に過ぎずして經濟界全體の有樣は前途洋々の望あるが如し其理由如何と云ふに先づ各地方農家の有樣を見渡せば二三年來打續きて豐作なりしが昨年は氣候不順の爲め各地とも非常の不作を氣遣ひしも秋收の時に至りては案外に損害少く平均五六分方の減作に止まり且つ豐作尻の事とて左迄の痛手と云ふ程にもあらず殊に生絲と云ひ製茶と云ひ中々の豐收なりしが上に爲替相場の下落は益々輸出を奬勵するの媒となり農民の嚢中自から暖かなるは事實なり只だ北海道の海産物は例になく不漁なりしも東海、南海の漁獲は非常に多く其上相場は他品に比して格外に騰貴したれば漁民全體の上より言へば寧ろ大に益せりと謂ふべし又た諸職工を始め勞働社會の有樣如何と云ふに諸種の工事建築の勃興と云ひ又た新に臺灣の版圖を加へし事と云ひ仕事多くして人手足らざる有樣、爲めに賃銀の如きも一割乃至二三割の騰貴を見るに至れり此の如く農工と云ひ漁民と云ひ何れも萬歳の景況なるに商賈に限りて不景氣を嘆つとは事理に於て許さゞるのみか論より證據實際不景氣と嘆つ程の時節ならば先づ金融の逼迫を訴ふべき筈なるに金融は依然緩慢にして昨年末にても二錢四五厘より六七厘の間に在りしを見ても年末の不景氣は一寸の小憩に過ぎずして一は商人等が例の口癖にて實際よりも不景氣の聲を高めしを知るべし既に小憩とある以上は新玉の歳と共に商賈の春も回復して再び非常の盛況を來すに至ることは火を見るよりも明なり故に今日の憂へは不景氣にあらずして却て景氣過るに在り今少しく其理由を述べんに昨年上半季の末頃より經濟界は急に春色を催して鐵道、電氣を始め紡績其他の製造又は商賈に關する諸會社の勃興すること雨後の筍も啻ならざる有樣にて今日にては未だ設計の最中とて金融上にも影響を及ぼさずと雖も追々時日を經るに從ひ右諸會社が資金の拂込を要するの時にも至らん之を自然の儘に放任したらば金融市場恐るべき惡影響を及ぼすのみか今日設計の諸會社は悉皆確實有益のものとも限らざれば若しも其中の一會社破産の災を見ることもあらんか一波は一波より傳へて終に經濟界の狂瀾怒濤を引起すに至るやも知るべからず殷鑑近く二十一二年に在り勿論今日にては信用制度の發達と云ひ商工業の擴張と云ひ殊に會社法さへ施行されしことなれば去る二十一二年とは同日に論ずべからざれども此等の事頼むべくして頼むべからず右の諸點に於て我邦より遙か數等の上に在る米國が往年鐵道熱に浮かされて市場の大恐慌を起し獨逸が戰捷後非常の失敗を取りしを見ても油斷の大敵たるを知るべし今日經濟界勃興の時と云ひ殊に新年早々杞憂の事を並ぶるは一は當局者の注意を喚起し一は不景氣を嘆つ連中を慰めんとて斯くは無用の文を草しつ　(完)

○獨逸國會の開會と詔勅

獨逸帝が去月三日國會の開會式に臨み述べたる詔勅に云く各國との交情審に依て親密なるは慶賀の至りにして佛露の二國と共に日清の戰爭をして一層混雜を惹起さしめざらん爲め盡力周旋する所ありしに日本は能く事の輕重を識別し我望に應ぜしは深く謝する所なり是れより獨逸商人はますます東洋に商業を擴張するの餘地を得たれば充分奮勵するを要す又土耳其問題に就ては各國互に一致して改革を實行せしむ可しと

○北海道雜木輸出の計畫

に繁生せる方言イタヤ、ヤチタマ、
分種々の用材に供し得べきものなる
輸の不便なるより中には間々之を
無きに非ざれども到底引合はざる
と見做されて僅に薪炭に供するの
を一切燒棄て來りたるの姿なりし
木商組合にては斯く一廉の物産を
如何にも同道の爲めに遺憾の事な
鐵道會社等へ相談の末車船運賃の
りしかば今後は大に是等の雜木を
國に輸出を試みんと目下頻りに其

THOSE HORSE[LESS]
Mother-In-Law—O, You w
Wife—Stop it, John! Stop
Miserable Husband—I-I-I
Park policeman—It's ag'n

例の馬無し車、間野
養家の母親　お前はマア何て云ふ
妻　貴下、御止めなさいッたら
憫む可き養子　間野拔作　ワ、私の
公園の巡査　愛を如其なに速く